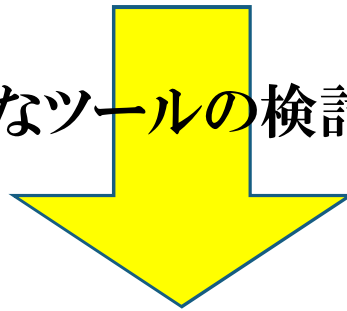


☆客船誘致に向けた新たな展開

【主眼】

- 今後の客船寄港の定着化
- ポートセールスでの有効打
- 乗船客・海からの目線での観光案内・PR
- 地域の観光復興・観光振興

新たなツールの検討・展開



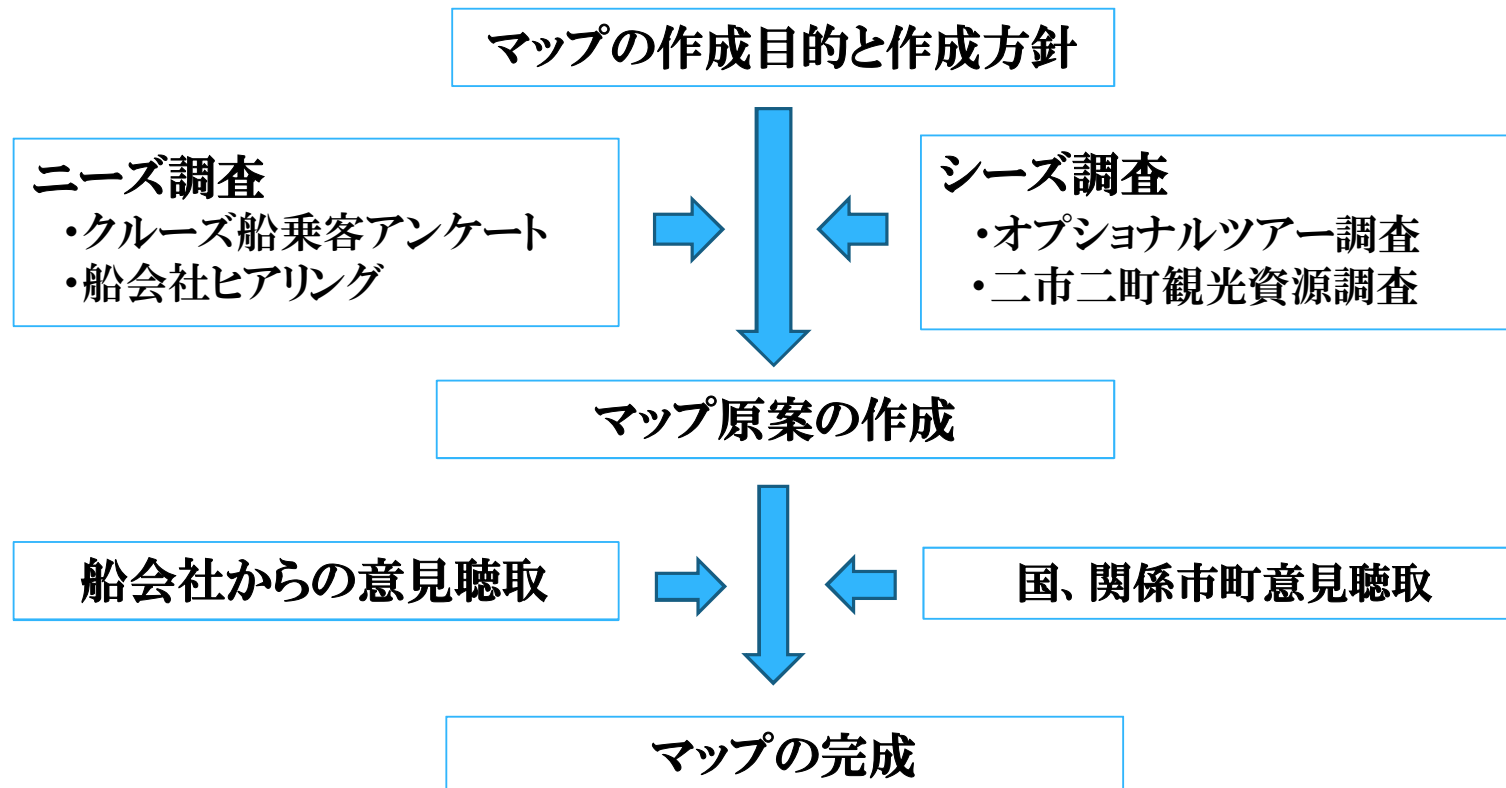
- ①乗船客・海からの目線での観光マップ作成
- ②海を活かしたオプションツアーの提案 など

【クルーズ客向けのマップの作成】

(1) マップの作成目的と作成方針

- 石巻市がクルーズ船を今後も定着させ、地域振興のツールとして活かしていくため、「乗船客目線」かつ「海から見た視点」でクルーズ乗船客向けの観光マップの作成
- クルーズ船社ヒアリング等も踏まえ、乗船客、クルーズ船社に役立つ情報、魅力ある情報の入れ込み

(2) 作成手順



(2) マップ構成 (A2 両面)

○2市2町(石巻市、東松島市、女川町、松島町)の地図と主な観光資源の位置(表)

- 【留意点】*2市2町の観光WEBサイトとの情報共有
*埠頭からの所要時間、タクシー料金を明示

○石巻広域マップ(裏)

- 【留意点】*海から見たマップ(田代島、金華山まで)
*市内を案内するボランティアガイドの情報も掲載
*埠頭から主な観光地までの時間距離、タクシー代等を記載する。

○石巻中心街マップ(裏)

- 【留意点】*主な観光資源の概要を掲載(石巻の特徴である「食」(海産物、B級グルメ等)の情報)
*取り上げる店舗は、石巻市商工観光課で調整、また資源までの時間距離、タクシー代等を記載
*飲食施設、コンビニ、ATM等の情報など、クルーズ船客のニーズが高い情報も掲載

(3) 作成体制

○石巻市(河川港湾室、商工観光課)、東松島市、女川町、松島町



海を活かしたオプションナルツアー(新規)

	田代島にゃんこ島への旅	日本有数の漁場 つり三昧	プロカメラマンと一緒に撮る 石巻の海、陸、そして空	かき養殖の発祥の地を 訪ねて	「東洋一の市場」 石巻魚市場見学	支倉常長ゆかりの地と 海から見たサン・ファン号
ツアーの特徴	石巻港から船で1時間ほどのところにある田代島は、猫の島として知られている。島では昔から、大漁をまねく、海難事故を防ぐなどの言い伝えがあり、猫神様が祀られているなど猫が大切にされている。住民の数を上回る猫達がいる島を散策し、人懐っこく個性豊かで、自由に暮らす様子を旅して見る。 ツアーでは、田代島に行く途中、遣欧使節団を乗せた船「サン・ファン号」の復元船を海から撮影するほか、田代島でとった猫の写真をその場で絵葉書化し、旅先からの便りとして郵送できるサービスも予定されている(チャーター船利用の場合)。	金華山から田代島にかけての海は、日本でも有数の漁場として知られており、毎年多くのつりファンが訪れている。 ツアーでは、田代島のつりの人気スポットにご案内し、旬の魚を釣り上げてもらえるようにする。 なお、釣果については、地元民宿の協力で、鍋にできるもの、刺身に食べるものに仕分け、それぞれ、釣りたての魚を食して楽しむことができるようにする。	まず、きれいな写真の撮り方(デジカメを対象)について、地元のプロカメラマンから手ほどきを受けたあと、船に乗り、フォトポイントから石巻の海、陸の写真を撮る。(空については、ブルーインパルスの写真の撮り方についても手ほどきを受け、ブルーインパルスの飛行がある場合は、海から撮影を試みるができるようにする。)	宮城で初めてかきの養殖を始めたのは石巻市の万石浦で、その中心的な役割を果たしたのは、「料理の鉄人」の審査員としても知られる、食ジャーナリストの岸朝子さんの父親である、宮城新昌氏(「世界のカキ王」とも呼ばれている)である。 ツアーでは、かき養殖の歴史を学ぶとともに、採れたてのかきを焼いて食べることができる「かき小屋」を訪れ、かきを美味しさを堪能してもらう。	石巻魚市場は、その大きさから「東洋一の市場」とも言われていたが、東日本大震災の被害を受け、来年春の部分開業、再来年の全面開業に向け復興中である。 ツアーでは、震災前の賑わいの様子、震災による被害の様子、復興に向けた再建の様子を関係者から説明を受けるとともに、活気を取り戻しつつある魚市場の雰囲気を感じてもらうこととする。	1613年(慶長18年)、仙台藩主伊達政宗の命を受け、ヨーロッパへ渡った支倉常長ら慶長遣欧使節ゆかりの地である月の浦と、太平洋を往復した木造洋式帆船「サン・ファン・パウティスタ」の復元船の見学。 なお、このコースは、石巻港からチャーター船を使い、サン・ファン号が航行したコースを辿るほか、復元船を海側から見学し、出向した当時の様子に思いを馳せてもらうことを想定している。
主な訪問先	田代島(石巻港よりフェリー)	田代島(石巻港よりフェリー)	石巻周辺海域	石巻(荻浜、中瀬)ほか	石巻魚市場	月の浦、蛤浜、サン・ファン館(昼食、みやげ物店立ち寄り)
クルーズ船の ツアーとしての 実績(2013年)	なし	なし	なし	なし	なし	既存ツアー(ピースボートではバスツアー)を基にした新規提案
ツアー催行上の課題	島までの航路が日に2~3便だが、天候に左右される可能性がある。現地の受け入れ態勢の整備が必要である。	島までの航路が日に2~3便だが、天候に左右される可能性がある。現地の受け入れ態勢の整備が必要である。(とりわけ、ガイド、昼食)	フォトワークショップを催行できるプロカメラマンの確保 当日の天候状況と万一の場合の別プログラムの用意	季節限定催行となる。	来年春以降の催行となる。	特に問題はない。
備考	島内にある『猫神社』は、平成21年4月、国土交通省『島の宝100景』に選定。 田代島中心部にはマンガロッジなどを備えたキャンプ施設がある(利用は、4月~10月まで:要予約) 朝食、昼食については、地元民宿が対応可能である。	朝食、昼食については、地元民宿が対応可能である。 釣竿は、田代島のロッジ、民宿で確保。えさは、乗船前に調達。	可能であれば、今年度業務において作成する観光パンフレットにおいて海からの景観に優れた場所について、「フォトポイント」をマーキングできるようにする。(将来的には2市2町にまで拡大)	かき料理を楽しむことができる石巻エリアのお店に関して、「岸さんお勧めのお店」として売り出すことができれば、ツアーの付加価値が増す可能性がある。 「かき小屋」は日曜日のみ営業。月曜日以外は、近くにある名物食堂などを想定。	可能であれば、昼食を市場周辺、あるいは場内に設置が見込まれる会議室などを利用してとることができるようにすることが、利用者の満足度を高めるものと考えられる。(難しいようであれば、市場と連携し、船内で食することができるようにする。)	ピースボートでは、ロマン海遊21、被災地見学を含め約6時間のツアーであった。 海産物を使った「SEA級グルメ」地元特産品鹿肉を使った「鹿肉カレー」など、グルメにとっても興味深いツアーとなるようにする。

クルーズ船社からの意見(順不同)

- マップは、基本的には乗船約1ヶ月程度前のOP申込時に同封させていただくか、乗船後船内配布する形になるので、内容的には、オプションツアー参加者よりも自由行動者の利用が主となる。
- 日本船のクルーズ乗船者の場合、シニア(60歳以上)となるので基本文字は大きく(または太く)見やすい方が望ましい。
- 枠囲いの観光箇所や車での所要時間等は少し大きすぎる感じでも良い。
- 地図については、東西南北の方位の記号と地図の距離感が解るスケール表示(1000m)的なものが必要である。お客様からも問い合わせが多くある。
- 観光箇所、食、お土産、体験的な仕分けでの案内とは思いますが、記号等でわかりやすくしたり、色分けの意味、記号の意味をどこかで記載したりすべき。
- 主要観光施設については、港起点での車での時間的距離を各施設の案内に入れた方が利便性が高まる。
- 各観光協会の問い合わせ先、営業時間等などの記載があった方が良い。

東日本大震災の概要(石巻市関係)

- 地震名 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震
(東日本大震災:マグニチュード9.0)
 - 発生日時 平成23年3月11日(金) 午後2時46分
 - 死者(関連死含む)、行方不明者数及び避難者数 ※(H26.1月末現在)
 - 死者 3,518人
 - 行方不明者 439人
 - 最大避難者数 50,758人
 - 最大避難所数 259箇所(避難所は平成23年10月11日、待機所は同年12月11日をもってすべて閉鎖)
 - 全壊 19,974棟
 - 半壊 13,098棟
 - 一部損壊 23,615棟
- 被災家屋 合計 53,742棟

石巻市の被災写真



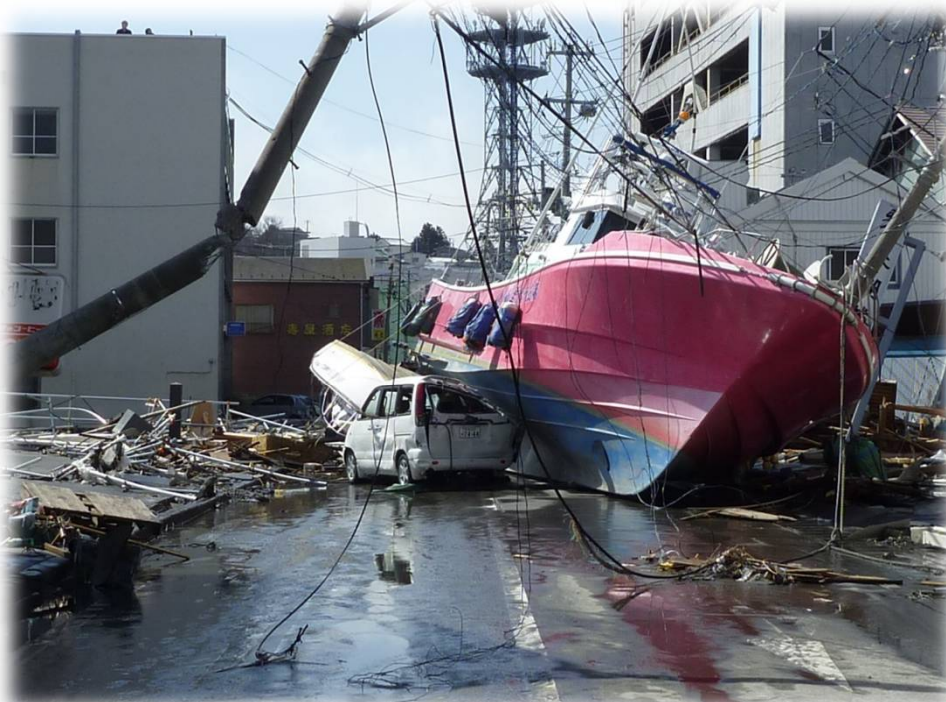
津波直後:H23. 3. 11 15:30頃



日和山公園から中瀬を望む
平成23年3月11日 17:00に撮影



川から離れたJR石巻駅が5日間も津波により浸水。もともと低平地盤であった石巻市街地が、地盤沈下によってさらに低くなった。









震災後の石巻港



復旧



復興



3.11大震災



石巻港復旧概要



～石巻市から皆様へ～ 全国の皆様方の温かい御支援 ありがとうございます。

ぜひ、「石巻」をお訪ねください。
お買い物ものや、観光スポットを巡り、魅力いっぱいの
「食彩・感動・いしのまき」をご堪能いただくことが復興の
力になっていきます。

いつでも、日々変化するまち「石巻」をお訪ね下さい。
心より、おもてなしをさせていただきます。

お待ちしております。



食彩・感動 いしのまき

—最大の被災都市から
世界の復興モデル都市石巻を目指して—
がんばろう 石巻!